



甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS No. 6  
(July, 1969)



○山梨県で採れたフタホシサビカミキリ  
すでに INSECT MAGAZINE No. 74 (1969) 誌  
上にゴマフサビカミキリらしいものを採集した旨を  
報告しておいたが、その後、フタホシサビカミキリ  
*Ropica honesta* Pascoe と同定されたので、改めて  
ここに報告する。

1 頭、山梨県北巨摩郡武川村日野春, 30. vi. 1968,  
筆者採集。タリをビーティングして得た。

1 頭、山梨県甲府市内, 1~10. vii. 1968, 岩本  
勉採集。燈火に來たと云う。筆者所藏。

本種は従来、奄美、琉球諸島に産するもので、意外  
な記録であり、属としての北限も、佐多岬、対馬である。  
しかし、かつて東京の中央線の車中で同種と思  
われる個体が採集されたこともあり(未発表)、恐ら  
く中央本線沿線の低地には分布しているものと思う。

なお、本種の同定にあたって露木繁雄氏はじめ京  
浜カミキリグループの方々にお世話になった。ここに  
御礼申し上げる。(横浜市金沢区 高桑正敏)

○屋久島でオビハナノミ類 5 種を採集

1968年7月に屋久島を訪れた際、次の5種のオビ  
ハナノミを採集したので報告する。

1. タイワンオビハナノミ *Glipa pici* Ermisch,  
1 頭, 小杉谷荒川, 16. vii., 針葉樹伐材上。
2. コウトウオビハナノミ *G. malaccana nipponica*  
Nomura, 1 頭, 宮之浦, 20~22. vii.
3. サトウオビハナノミ *G. formosana* Pic, 1 頭,  
宮之浦, 20~22. vii., 広葉樹伐材に飛來。
4. コオビハナノミ *G. fasciata* Kôno, 1 頭,  
宮之浦, 20~22. vii.
5. ザウテルオビハナノミ *G. sauteri* Pic, 6♂♂  
2♀♀, 宮之浦, 20~22. vii.

このうち宮之浦の採集品はすべて宮之浦部落の西  
方の海岸際のチップ工場の土場で得たもので、強風  
のためか、風下側の樹林中でカン類やススキ類の葉  
上に静止中のものがほとんどであった。また、宮之  
浦で同時にオオキボシハナノミ *Hoshikhanomia*  
*auramaculata nipponica* Nomura 1♀ を採集し  
ていることを付記しておく。なお、同定して頂いた  
野村鎮先生に厚く御礼を申し上げます。

(横浜市金沢区 高桑正敏)

○ワモンサビカミキリの屋外成虫越冬の記録

ワモンサビカミキリが材中ではなく屋外で成虫越

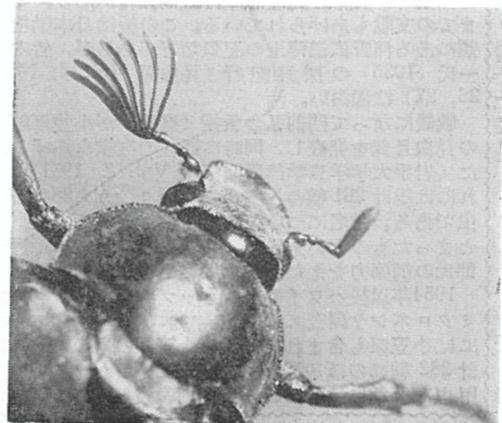
冬していたと思われる記録があり、確かなものでは  
ないので報告いたします。

横浜市金沢区室の木に於いて1969年2月24日同市  
六浦中の武田政広君がゴマダラチョウ幼虫の調査を  
していたところ、エノキ根元附近の枯葉中よりワモ  
ンサビ1♂を発見したものです。同君によれば、採  
集時は手足を縮めたままで動かずにいたが、持ち帰  
っていきっているうちに動き出したとのことで成虫  
越冬として面白い記録と思います。但し、このカミ  
キリは当地に於いては5~9月に出現し、発生時期  
から言っても種として成虫越冬は考えられず、何か  
の関係でこの個体だけ成虫越冬していた可能性が強  
い。なお、このカミキリは秋口に発生することが知  
られ(奥村尚氏, INSECT MAGAZINE No. 65),  
あるいは秋に発生してそのまま生きていた可能性も  
ある。ともあれ、関東に於けるカミキリの屋外成虫  
越冬の観察例はタテジマカミキリを除くと聞いたこ  
とがなく、珍しいものと思われます。この標本は筆  
者が保管しています。(横浜市金沢区 高桑正敏)

○コフキコガネの雌雄型

動物の生態写真家として有名な、岩合徳光氏の撮  
影された写真の中に、珍しいコフキコガネ *Melo-*  
*lontha japonica* Burmeister の雌雄型の写真を見  
出したので、岩合氏の許しを得て発表したい。

写真でも判る通り、触角は明瞭に左側が♀で右側  
が♀になっている。その他、頭楯の形(写真)、前  
肢の跗節と脛節などもはっきり左右が異なるので、恐



らくこれも左が♂、右が♀の形質を表しているものであろう。他の部分は標本から判断して、調べることが出来ないが、以上の点から判断して完全な左右型の雌雄型である可能性が強い。

岩合氏のお話によれば、1966年8月に豊島園で、雌雄型とは気付かずに撮影された由。従って標本も残っていないとのことである。まことに残念なことである。

最後に、写真を公表することを快く承諾された岩合徳光氏に厚くお礼を申し上げる。

(国立科学博物館 黒沢良彦)

#### ○南会津のタマムシ2種

アカヘリミドリタマムシ *Buprestis (Cypriacis) niponica* Hoscheck, 1931 は原記載以来採集された個体はごく僅かであると聞いている。福島県南会津郡館岩村湯の花では既に黒沢良彦氏が20年前に2♀を採集しておられるが、昨年同地附近で本種が比較的多数採集されたので報告する。

採集場所はヒメコマツ、アカマツ、スギなどの針葉樹材を主とした製材所で、成虫はこれら材木の製材されたものに飛来することが多く、また製材中に材の中からもよく見つかる由である。採集記録は次の通りである。

2頭, 15. vi. 1968 衣笠, A; 3頭, 6. vii. 1968, 衣笠, A; 1頭, 21. vii. 1968, 露木繁雄; 2頭,

6~21. vii. 1968, A. (Aは同製材所の作業員を指す)。

なお、同一場所でキンヘリタマムシ *Scintillatrix bellula* Lewis が2頭採集されており、既に田添京二氏により報告されているが(福島生物, No. 7, p. 1~2, 1964), かなり多産するものと思われる。

1頭, 7. vii. 1968, 手東喜洋; 1頭, 21. vi. 1968, 露木繁雄。(浦和市領家 衣笠恵士)

#### ○粟島産マイマイカブリの人為的移動?

——越後のオサムン覚え書——

アオマイマイカブリの分布は従来粟島および山形県西部とされ、更には新潟県弥彦山塊を含める向もある。しかし筆者は未だそれら本土側諸地域で採集された真の ssp. *fortunei* と同定されるべき標本を見たこともなく、採集した事もないところから、この虫の本土側における分布には少なからず疑問を抱いている。

ところで1968年6月粟島での一夜、筆者採集のアオマイマイカブリを見た宿の主人が大要次のような話をした。即ち“毎年春先になると粟島から相当量の萱が、近在の家の屋根の補修用などとして対岸の村上市岩船港へ積出されるが、この虫ならその萱の集荷移動の際萱の中や下からかなり出てくるのを見る。それらの萱は毎年秋に刈取を終ると通常は現場附近の山裾の砂浜などに、東ねて立てかけておくの

### 小笠原諸島の甲虫の記録

中根 猛彦

昨年小笠原が日本に返還になってから、この諸島の昆虫についても興味をもたれるようになったので御参考までに文献について述べておきたい。

御承知のように小笠原から最初に知られた甲虫はオガサワラタマムシとチャイロヒメカミキリで P. A. Holst の採集にかかり1890年に Waterhouse と Gahan が記載している(Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 6, Vol. 5, 169—170)。

その後、松村先生その他の調査などがあるが、まとまっているのは日本生物地理学会の会報 Vol. 1, No. 3 (1930) の小笠原特集であろう。これには江崎先生のリストや鹿野忠雄博士の報告があり、それまでの文献もあげられている。この後は日本動物分類にある河野広道博士の記録などがあるが、竹内誠一氏(1936)の採集紀行(昆虫界 Vol. 4, Nos. 26, 27)は面白い。

戦後になって門前弘多教授(盛岡)が小笠原諸島の昆虫目録を発表し、同時に既往の文献もあげられた(岩手大学学芸学部研究年報 Vol. 2, 1951)。これには総計261種の昆虫がでており、うち58種が甲虫である。種名については大分問題があるが、まとまったものといえる。(これの入手には岡野磨瑛郎氏の御協力をえた。記して感謝したい。)

1954年以後ハワイのビショップ博物館ではじめてミクロネシア調査の報告 *Insects of Micronesia* には小笠原も含まれており、小笠原のものだけで総計282種にのぼる昆虫が含まれているが、このうち甲虫は65種に達している。門前教授の報告と重複が

あるとしてもおよそ甲虫だけで100種ぐらいになるであろう。以下に既刊分をあげておく(入手はビショップ博物館 Bernice P. Bishop Museum, Honolulu, Hawaii, 96819, U. S. A. から)

Vol. 16 No. 1: Elateridae (Van Zwaluwenburg), 1957. \$2.50.

No. 2: Lampyridae, Cantharidae, Malachidae, and Prionoceridae (Wittmer), Anobiidae (Ford), Bostrychidae (Chûjô), Endomychidae (Strohecker) 1958. \$1.75.

No. 3: Dermestidae (Beal), 1961. \$1.25.

No. 4: Nitidulidae (Gilgoly), 1962. \$2.25.

No. 5: Coccinellidae (Chapin), Anthicidae (Werner), 1965. \$2.50.

Vol. 17. No. 1: Chrysomelidae (Gressitt), 1955. \$2.25.

No. 2: Cerambycidae (Gressitt), 1956. \$3.50

No. 3: Tenebrionidae (Kulzer), 1957. \$2.50

Vol. 18. No. 1: Platypodidae and Scolytidae (Wood), 1960. \$2.50.

この他に小笠原産の甲虫には私および黒沢君の報告したものなど数種あり、オガサワラハンミョウ・オガサワラチビクワガタ・キンモンオビハナノミなどが含まれている。私と石田裕君の報告した硫黄島のゴミムシ *Iwosiopelus masudai* は竹内氏が紀行の中で図示したものと同じかも知れない。これらは科学技術庁が昨年だした文献目録にはもれている。

(国立科学博物館)

だ”というのである。同年8月に再渡島した際、偶然3人以上の他の島民から、“マイマイカブリなら春萱を動かすときにくればいくらでもとれる”と言われて驚くと共に、多分越冬のためめぐりこんだであろうアオマイマイカブリが萱の移動によって、平素虫になど関心のない人々の目につく程こぼれ落ちるといふ話が事実らしいのを知った。若しそうであるとすると、毎年無作為によって人為的に多少のアオマイマイカブリが萱と共に、本土へ上陸している可能性がある訳である。

粟島からは他に新潟・山形県境の鼠ヶ関およびそこ村上市とのほぼ中間にある山北町桑川との間に不定期の船の往来がある。特に前者は距離的に最も粟島に近い関係上他の港へ入る予定の船も荒天の時などにはそこへ入るといふ。してみると、これら両地にも場合によっては積荷に附着して運ばれている疑いがありそうであるのみならず、両地とも山が海岸近くまで迫っているの運よく上陸したマイマイカブリのその後の生活にも不都合はなさそうである。

という次第で、アオマイマイカブリの本土側における分布は、従来云々されている他のどこよりも新潟県北西部特に岩船港近在の低山帯にその可能性が強いと思われるが詳細は今後の調査に期待したい。

(新潟県新発田市 小池 寛)

#### ○伊豆大島のハムシ

1967年8月3日、伊豆大島元町より三原山への登山道の附近で次のようなハムシを採集することができた。記録中\*印をつけた種は伊豆大島新記録種である。これで従来の28種と合せて35種が記録されたことになる。

1. \**Coenobius piceus* Baly クロヒメツツハムシ 6頭、食草：オオバヤシャブシ
2. *Oomorphoides cuperatus* (Baly) タラノキツツハムシ 4頭、(全てドウガネ型)食草：タラノキ
3. *Basilepta balyi* (Harold) ハンノキサハムシ 1頭、食草：オオバヤシャブシ
4. *Basilepta fulvipes* (Motschulsky) アオパネサルハムシ 4頭、(全て原型)食草：オオバヤシャブシ
5. *Colposcelis signata* (Motschulsky) ヒメキパネサルハムシ 3頭、(うち1頭は前胸背、翅鞘共黒化、2頭は前胸背のみ黒化)食草：クズ
6. *Aulacophora femoralis* (Motschulsky) ウリハムシ 1頭、食草：スイカ
7. \**Monolepta dichroum* Harold ホタルハムシ 1頭、(原型)食草：タデの一種
8. \**Monolepta pallidulum* (Baly) キイロクワハムシ 2頭、食草：オオバヤシャブシ
9. \**Altica cirsicola* Ohno アザミカミナリハムシ 2頭、食草：アザミの一種
10. *Altica oleracea* (Linné) ホソカミナリハムシ 1頭、食草：オオマツヨイグサ
11. \**Aphthona perminuta* Baly ツブノミハムシ 1頭、食草：オオバヤシャブシ

12. *Aphthona strigosa* Baly サメハダツブノミハムシ 8頭、食草：アカメガシラ

13. *Argopus clarkii* Jacoby クラーケマルノミハムシ 7頭、食草：センニンソウ

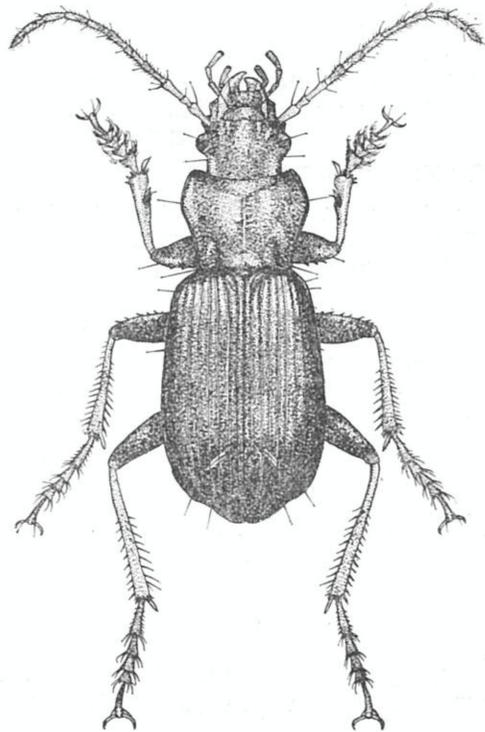
14. \**Luperomorpha pryeri* Baly サンショウノミハムシ 5頭、食草：カラスザンショウ

15. \**Cassida japana* Baly イノコヅチカメノコハムシ 1頭、食草：イノコヅチ

16. *Cassida piperata* Hope ヒメカメノコハムシ 1頭、食草：アカザ (東京都文京区 小宮義璋)

#### ○*Pterostichus abaciformis* Straneo ムナビロナガゴミムシ (新称) の新分布地

昨年、日大動植物研究会の柄沢保彦氏より同定を求められた能登半島の歩行虫の中に、興味あるナガゴミムシを見出す事が出来たのでここに報告する。本種は上高地島々谷より得られた1♀によってStraneo が1955年に記載した種で、同じグループに含まれると思われる日本産他種(例、キイオオナガゴミムシ、ヤツオオナガゴミムシ)と比較しても前胸背が後方でも巾広く、ほぼ正方形に近いので、一見して区別が出来る。その形状からStraneo はヨーロッパに産するナガゴミムシ類の一属(*Abax*)に似ているところから、学名として*abaciformis*と名づけた。原産地島々の他、常念岳より知られていたが、今回能登半島から新たに発見された訳である。



原産地のものに比べ、体長が大きい事、♂尾端の形状、♂交尾器等に多少の違いが認められるが、同一産地及び近接産地に於いても変異が一定せず、個体間にかんがりの巾が見られるので一応変異の巾と見なした。なおこれとは別に、木曾御岳、御在所岳（鈴鹿山系）のものを見る事が出来たが、能登半島のものと大きな違いは見られなかった。私の見解では恐らく本種は、中部山岳地帯を東限としており、西は京都附近迄分布しているものと思われる。この様に中部地方には低山帯から中山帯にかけて広く分布する。和名としてはその形状から考えて、ムナビロナガゴミムシが妥当ではないかと思う。標本を下された柄沢氏に御礼申し上げる。

(東京都世田谷区 須賀邦輝)

○伊豆利島産ハムシ科小録

筆者の1人前波は1966年6月、伊豆利島に渡り、13日から15日にかけての3日間、島内各地を歩いて昆虫類の採集調査を試みた。利島の昆虫相については、一部のグループを除いてはあまり調査が進んでおらず、ハムシ科甲虫に至っては全く記録がないので、今回の調査で分布の確認できたものは僅か5種にすぎなかったが、ここに種名を挙げて記録しておくことにしたい。

*Lema adamsi* Baly キベリクビボソハムシ (1頭).

*L. honorata* Baly ヤマイモクビボソハムシ (1頭).

*Acrothinium gaschkevitchii* Motschulsky アカガネサルハムシ (2頭).

*Chrysolina aurichalcea collaris* Weise ヨモギハムシ (3頭).

*Aulacophora nigripennis nigripennis* Motschulsky クロウリハムシ (1頭).

(大野正男・前波鉄也)

○ヒゲナガヒメカミキリの食樹

ヒゲナガヒメカミキリ *Ceresium longicorne* Picの食樹については、草間慶一氏はミカン類を挙げ(新しい昆虫採集, 下巻), 林匡夫氏の生態図鑑には

ミカン類とモリシマアカシヤが挙げられているが、本年5月静岡県石廊崎から持ち帰った枯枝から羽化したので報告しておく。材は、コナラ、オオバヤシヤブシ、ウバメガシの三種で、それぞれから数頭ずつの羽化を見た。6月15日に石廊崎で野外より採集した際は、スダジイの枯枝のピーティングで得られたが、どうやらかなりの雑食性を示す種であるらしい。オオバヤシヤブシから羽化した個体はやや大型であったが、これは食樹としての適不適よりも枝の太さの関係と思われる。(東京都品川区 木村欣二)

計 報

会員、勝村一男氏は今年5月19日に71才で逝去された。謹んで哀悼の意を捧げる。

氏は戦前からカミキリムシ類を愛好し、トウホクトラカミキリ *Chlorophorus tohokensis* Hayashi は氏の採集された標本に基いて記載されたものである。氏は故織田一磨氏、故平山修次郎氏、故林慶氏等とも親交があり、1944年(昭和19年)夏に北海道大雪山に登山されて、ウスバキチョウ、ダイセツオサムシ、アイヌキンオサムシ、オオルリオサムシなどを多数採集された話は有名である。これらの標本は、ウスバキチョウは故林氏蒐集品として、オサムシ類は直接に、共に国立科学博物館所蔵標本中に健在している。ともあれ、氏のあの独特のしわがれ声はも早永久に聞くことはできない。寂しい限りである。心から御冥福を祈る。

(黒沢良彦)

甲虫談話会

会費(1カ年)500円、第7号は9月末発行予定、投稿メ切は8月30日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電(822)0111, 振替東京60,664

大蔵生物研究所速報

台湾産クワガタムシ珍種

モチヅキクワガタ ♂大 ¥2,000

並 1,500

ウスバクワガタ ♂♀一組 大 1,500

並 1,000

タカサゴノコギリクワガタ ♂大 2,000

小 1,500

オオマルバネクワガタ ♂♀一組 1,500

ニューギニア産クワガタムシ類

*Serrogatus arfakianus* Lansberge ♂♀一組大 ¥1,000

並 800

小 400

*Serrogatus intermedius* Gestro ♂大 500

中 300

小 200

*Lamprima adolphinae* Gestro ♂大 900

中 600

小 400

♀ 300

*Aegus* sp. ♂♀一組 500

台湾産および日本産甲虫類各種在庫があります。昆虫在庫表を切手200円封入の上御申込み下さい。上記掲載種に限り当会々員は1割5分引き致しますから御注文の折にその旨明記して下さい。

東京都練馬区石神井局私書箱3号 大蔵生物研究所